
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
平成 1 7 年 6 月 2 2 日

八 代 海 No.1

[1] 6月21日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

今回の調査では、全調査点で着色域は確認されませんでした。

全体的にキートセロス属が多く、その他のプランクトンの数、種類はともに少ない状態でした。

また、コックロディニウム ポリクリコイデスが脇崎沖、一來崎沖、獅子島東部（幣串沖、立石鼻沖）、水俣沖と広い範囲で確認されました（最高4 cells/ml）。また、脇崎沖でシャトネラ アンティーカが1 cells/ml確認されました。

なお、ヘテロシグマ アカシオ（以下ヘテロシグマ）による赤潮が発生していた東町三船浦については、ヘテロシグマの細胞は確認されませんでした（6/18注意報発令分）。

(2) 海 況

表層水温は八代海全域で22.0～24.2℃で平年同時期並、塩分は33.0～33.4で平年同時期よりやや高め、透明度は全体的に平年並みですが、東部海域でやや高めとなっています。

水 温：平均 23.4℃ (23.5℃)

塩 分：平均 33.2 (32.8)

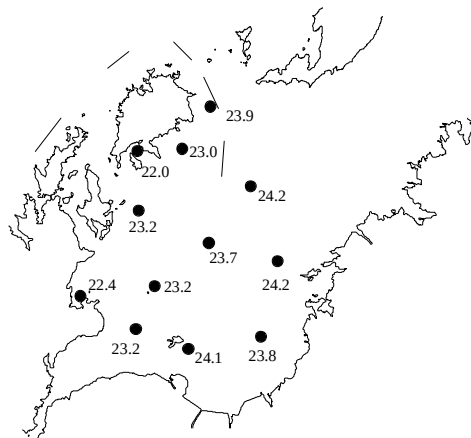
透明度：平均 9.3m (9.0m)

()はH13～H16年6月の平均値（同平年値）

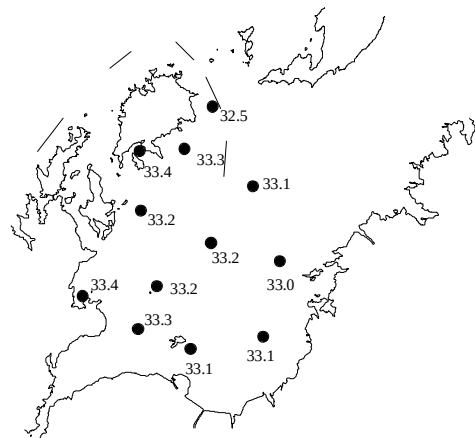
[2] 今後の赤潮発生の予想

現在の水温は、おおよそシャトネラ アンティーカの増殖適水温（23～26℃）にあります。確認された細胞数は1細胞のみでありましたが、今後梅雨前線の活動が活発になり、塩分濃度が下がれば、比較的低塩分を好むシャトネラ アンティーカが増加することが考えられます。

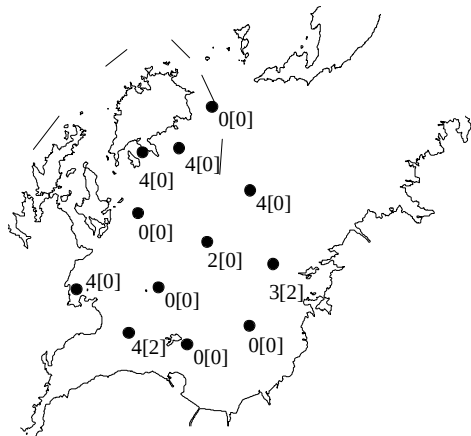
一方、広い範囲でコックロディニウム ポリクリコイデスが確認されましたが、本種は高温（27～28℃）・高塩分（32～33）を好むことが知られています。シャトネラ アンティーカと同様に今後の水温動向や雨の降り方等には注意を払うとともに、出現海域付近の養殖場では、水の色や魚の状態等に十分に注意を払うとともに、当面検鏡によるプランクトンの監視が必要です。



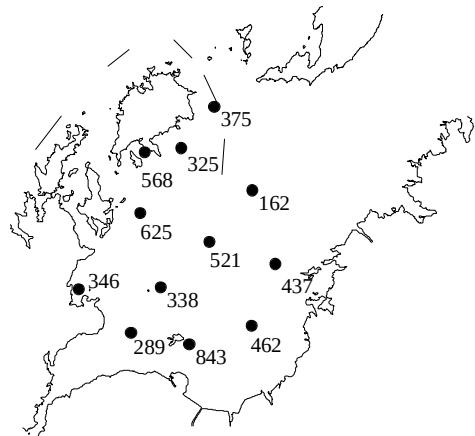
表層水温 (°C)



表層塩分



コックロディニウム ポリクリコイデス表層細胞数 (cells/ml) []内は10m層



キートセロス属細胞数 (cells/ml)